



古居みずえ監督作品

「飯舘村の母ちゃんたち」第2作の サポーターになってください！

未曾有の大震災と原発事故に見舞われた福島はこの10年間に「復興」という文字があっても、現実はどうなのでしょう？ 私は、福島を訪問するたびに、ここに生きる方々、生きていかなければならない方々の尊厳が傷つけられていることを実感します。

第1作に登場された菅野榮子さんを監督と一緒に、2019年訪問する機会がありました。飯舘村に帰村をして、日常を取り戻そうとしている榮子さんから「人間は自然がなければ生きていけないね」の一言が今でも心に重く残っています。映画の中で自分らしさを保ってくれた畑はもうなく、その時は小さなプランターでの野菜作りをしていました。除染後の土は、野菜作りには全く適していないということでした。飯舘村の開墾から何代もかけて土壌を育ててきた自然の恵みが壊されたのです。

現在古居監督は、飯舘村の震災からの10年間を第2作目として準備しています。そこには、人と自然の共生と尊厳が描かれ、そしていつもの古居監督の特徴でもある人間力に焦点があてられると期待しています。

今を生きる私たち一人一人もまた、震災を風化させないように次世代に記録を残していかなければ、と改めて強く願っています。

第2作も1作目同様、皆様の募金により映画の完成実現を目指しています。是非一人でも多くの方のご理解とご支援をお願い申し上げます。

(映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会代表・岡戸良子)

映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会

メール iitateka311@bb-unext01.jp FAX 03-3209-8336

URL <http://iitatekachan.info> フェイスブック 飯舘村の母ちゃんたち



10 年間飯舘村のお母さんたちを追って

古居みずえ監督

東京電力福島第一原発事故から 10 年経ちました。皆さまのご支援をいただき、2016 年、映画「飯舘村の母ちゃんたち 土とともに」を完成することができました。誠にありがとうございました。映画は劇場上映を皮切りに、全国で自主上映が広がり、2017 年には韓国やアメリカで上映され、海外にも広がりました。これもひとえに皆さまのご支援の賜物です。

第 2 作は飯舘村の酪農家のお母さんたちを中心にした物語です。2011 年 3 月、大地震の後に津波が来て多くの命が失われました。12 日からは福島第一原発の事故が発生し、多くの悲劇が生まれたのです。私は当初、宮城、岩手を回りました。被災地を回っている私に福島県の飯舘村が計画的避難区域に指定されたというニュースが飛び込みました。全村避難となり、追われていく住民の姿が、長年私が追いつけたパレスチナの難民の人たちの姿と重なったのです。

私は飯舘村に行くことを決めました。そこで出会ったのが、酪農家のお母さんたちでした。放射能汚染が懸念される飯舘村の牛たちはミルクを出荷することも、移動することも、牧草地の草を食べることも禁止されていました。会議が開かれ、酪農家たちは泣き泣き休業し、移動できない牛を屠畜することにしました。

子どものように育てた牛たちを手放すときにお母さんたちが「ごめんね、ごめんね。ありがとう」と涙ながらに

見送った姿は今でも忘れることができません。そのとき私はこのお母さんたちを追いかけて、撮り続けようと決意しました。

私が出会ったある人は酪農を断念して仮設住宅の管理人として働き、ある人は牛にかける思いは人一倍強いのに悔しい思いで牛を手放し、またある人は牛をやめたら東電や国に負けたことになるかと牛飼いを続けています。どん底の思いをしながら、それぞれが悩み、苦しみ、ときには笑いながら生きる姿に励まされます。

「飯舘村の母ちゃんたち」第 2 作では、帰村した人もしなかった人も、それぞれどういう人生を見つけ、生きているのか、彼女たちの日々の暮らしを通して飯舘村がどうなっていくのか？ 原発事故は何をもたらしたのか？ 見つめていきます。

飯舘のお母さんたちを追いかけて 10 年。私はこれまでいろいろな人たちの力を借りながら、撮影を続けてきました。映画を作るために車を出してくれた人、書き起こしを手伝ってくれた人、資金集めをしてくれている人、チラシを作ってくれている人。皆さんと力を合わせてこの映画を作っていきたいと思います。そしてこの映画を一人でも多くの方に観ていただきたいと思います。この作品を世に出すためにはさらに多くの方々の応援が必要です。どうか皆さんの力をお貸しください！

古居みずえプロフィール

1988 年よりイスラエル占領地を訪れ、パレスチナ人による抵抗運動を取材。特に女性や子どもたちに焦点をあてる。2007 年、映画『ガーダ パレスチナの詩』、2011 年、映画『ぼくたちは見た ガザ・サムニ家の子どもたち』を制作。2016 年、福島県飯舘村のお母さんたちを追った映画『飯舘村の母ちゃんたち 土とともに』を制作。著書に『インティファダの女たち』（彩流社）、『ガーダ 女たちのパレスチナ』（岩波書店）、『パレスチナ 瓦礫の中の女たち』（岩波書店）、『パレスチナ 戦火の中の子どもたち』（岩波書店）など。

★支援のお願い★

支援金 1口 3,000円（個人）

1口10,000円（団体）

多数口大歓迎！！

ご送金先 郵便振替 00160-0-664342

あるいは振込（メールでご住所お知らせください）

ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュー）支店

当座 0664342

口座名 映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会